



大阪府保育士会だより

ほほえみ

令和6年
9月1日

139号

発行 大阪府社会福祉協議会 保育部会・保育士会 大阪市中央区中寺1-1-54 ☎ 06-6762-9001

保育士派遣事業



●四條畷学園短期大学

5月14日、四條畷学園短期大学保育学科の2年生72人を対象にした就職講座において、柱本保育園ことも未来学舎の川畑園長と2人の保育士が仕事の魅力や、保育士をめざしたきっかけから、現在までのサクセスストーリーを紹介されました。

谷崎先生は、一度は保育士をあきらめ、ダンスの道に進みましたが、保育士としてもう一度チャレンジし、

好きなダンスを活かして子どもたちや保育士同士の絆を深めて、充実した日々を過ごしていると話されました。

同園の卒園児でもある大



左から谷崎さん、大野さん、川畑園長

近畿ブロック 保育研究集会



令和6年7月4日・5日、ウエスティン都ホテル京都にて1,000人を超える参加者の中、開催されました。

オープニングセレモニーに、京都府在住の武人画師こう

じよう雅之氏が、会場の雰囲気からインスピレーションをうけ、即興で織田信長公を墨で描かれました。会場が盛り上がる中、開会式が行われ、基調講演そのあと、8分科会に分かれ、学びを深めました。

第5分科会で、西陶器こ

ども園の野田先生と福井先生が『10の姿』を踏まえ、就学に向けての円滑な接続を！と学びの芽を育む現場から」をテーマに発題されました。子ども接続検討委

野先生は、サッカーを教えしてくれた先生に憧れ、保育士をめざし、今は、自分が子どもたちにサッカーを通して体を動かす楽しさを伝えていけると話されました。

働きながらも資格等を取得失いキャリアアップができること、夢や好きなことが保育の仕事につながっていくことを伝え、学生たちにエールを送られました。

●桃山学院教育大学

6月25日桃山学院教育大学人間教育学部3年生26人を対象にした、子育て支援の講義では、堺めぐみ学園の沢西園長と百舌鳥こども園の阪井園長が、地域への

員会での取り組みを通して、お互いの教育・保育を知り、交流を深めることで、地域一体となつて安全安心な子どもを育てていく環境づくりをめざしていきたいと語られました。

2日目は、「子どもって、

みごとな人間だ！」をテーマに佐伯胖氏と井桁容子氏による記念講演(対談)があり、最後は来年の開催地、神戸市からあいさつがあり、閉会式となりました。



左から沢西園長、久木山さん、阪井園長

子育て支援として園庭開放や、乳児家庭全戸訪問事業、一時預かり保育(ほっと預かり)、地域交流活動、関係機関との連携について話さ

れました。保護者への子育て支援として、学生と年齢の近い久木山先生は実体験から、日々子どもたちや保護者との向き合い方・かわり方など、悩んだり困ったりした時は、必ず助けしてくれる先輩や園長がいることなど、終始笑顔で話され、久木山先生の熱意や安心感が、学生たちに踏み出す勇気を与えたと感じました。

全国保育士会

食育推進研修会に参加して

令和6年度全国保育士会食育推進研修会が、150名参加の中ホテルグリーントワー幕張で開催されました。1日目は歯科医の権暁成院長が「子どもの発達に合った食へのアプローチ」について、筑波大学医学医療系准教授 水野智美氏が「配慮が必要な子どもに寄り添う食育」についてご講義されました。

2日目は上越教育大学大学院教授の野口孝則氏が「子どもの育ちを支える食育」について講義され、乳幼児の食育は、心身の発育・発達や豊か

な人間性の形成に不可欠なものであり、保育所・認定こども園などの特性を活かし、保育の一環として推進することの重要性を説明されました。全国保育士会より発行されている「毎日の食事を中心とした食育の推進」パンフレットを使い、保護者が食育に取り組み意義や、家庭との連携・協働・地域との連携、関係者への情報発信の方法についても学びました。また、グループワークでは情報交換の時間をもつことができました。

が、でき有意義な研修となりました。

研修レポート
午前の部
北大阪ブロック

保育士研修会

「造形活動」

造形教育研究所代表 村田夕紀氏

6月11日に「造形活動」研

修が、たかつガーデンで行
われました。午前の部では、
「ビニールテープを使った
楽しい遊び」をテーマに0
〜2歳児向けの絵画活動を
紹介され、シールを貼って
はがす遊びやビニールテー
プの使い方について学びま
した。

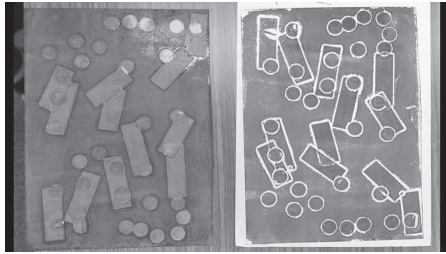
ビニールテープを貼った
素材を触って確かめること
で、はがしやすさの違いに
気づき使いやすい素材を知
ることができました。

牛乳パックを使った汽車
作りや、子どもたちの発想
を引き出すためのポイント
も紹介されました。さらに、
発達段階に応じた版画活動
についても学び、2歳児ま
ではビニールテープや丸
シールを使った簡単な版画
からはじめ、3歳以上児で
は緩衝剤や毛糸など、さま
ざまな素材を使って版画を
行いました。参加した保育
士たちは、これらの活動を
通じて新しい知識を得るこ

とができました。

また、版画の後片付け方
法や次の人への心配りなど、
絵画活動の中にも保育に活
かせる学びが多くありまし
た。研修を通じて、保育士た
ちは、普段の保育も大人が
主体の分かりやすい保育で
はなく、子どもが主体とな
り自由な表現を大切にす
る保育の重要性を再確認し
ました。

絵画活動は、保育が安定
している環境でこそ初めて
有意義に行われること、ま
た具体的な実践方法を多く
学べ、充実した内容でした。



研修レポート
午後の部
北摂ブロック

午後の部で
は、「ハサミ
が使える楽し
さから、つく
る楽しさへ」

をテーマに、3〜5歳児向
けの造形遊び研修が行われ
ました。研修の冒頭で、「ハ
サミは練習ではなく、道具
を使う楽しさや切ることの
楽しさを感じられる活動に
しましょう」と話からはじ
まりました。

【ハサミの使い方】

ハサミの使い方は、まず
1回で切る「1回切り」から
はじまり、次に2〜3回で
切り落とす「2・3回切り」、
最後に長く切り進む「連続
切り」へと進みます。

直線や曲線、ギザギザな
どの線を切ると、子どもた
ちは「間違った」「できない」
と感じることが多く、緊張
してしまい道具を扱う楽し
さが味わえません。しかし、
指示線のない紙を自由に切
ることで、子どもたちは切
った紙を「ご飯」や「ウサギの
耳」と見立てて遊ぶことがで
きます。また、フリーハンド
で丸を切った場合でもそれ
ぞれ違った個性的な丸とな
り楽しむことができます。

次は実技を交えての研修
でした。

実技1：子どもの絵に 見立てて描く

講師の村田先生から「子
どもが描く絵を描いてくだ
さい」と指示が出されまし
た。

子どもが描く絵とは？

村田先生からは「利き手
ではない方の手で描くと、
ちょうど子どもが描いた感
じになる」と説明があり、子
どもの描く絵が描けること
が保育者の絵の上手さだと
話されました。普段から何
気なく見ている子どもたち
の絵をよく観察することが
大切だと思いました。

実技2：制作の5つの基本形

- ① 階段状に折る
- ② カールさせる
- ③ ジャバラに折る
- ④ 円柱をつくる
- ⑤ 箱をつくる

この5つの基本形を使っ
た実技です。

①の階段状と②のカール
を組み合わせると豪華な花
ができ、花の茎は扱いやす
いためのストローを使いま



村田先生

す。牛乳パックの角に切り
目を入れ花瓶にする方法も
学びました。

③のジャバラに顔をつけ
て動物に見立て、「ピヨ
ン、ピヨ、ゆらゆら」と動きを
つけると楽しむことができ
ました。

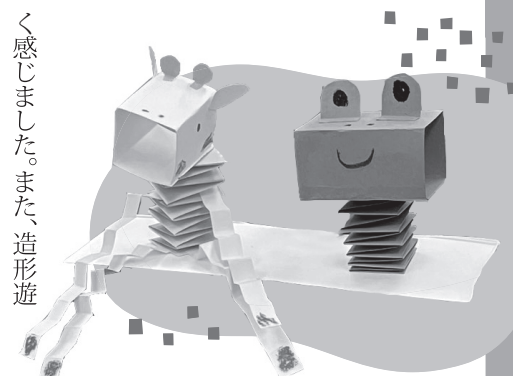
④の円柱を使うと、さま
ざまな人形をつくること
ができます。①の階段状や③
のジャバラで手や足を付け
て個性あふれる人形がで
きました。

最後は⑤の箱の中につ
たものを入れて独自の世
界を思い思いに作りあげま
した。

今回の研修では、多くの
実技を通じて造形遊びのポ
イントや応用方法を学ぶこ
とができ、時間が経つのも早

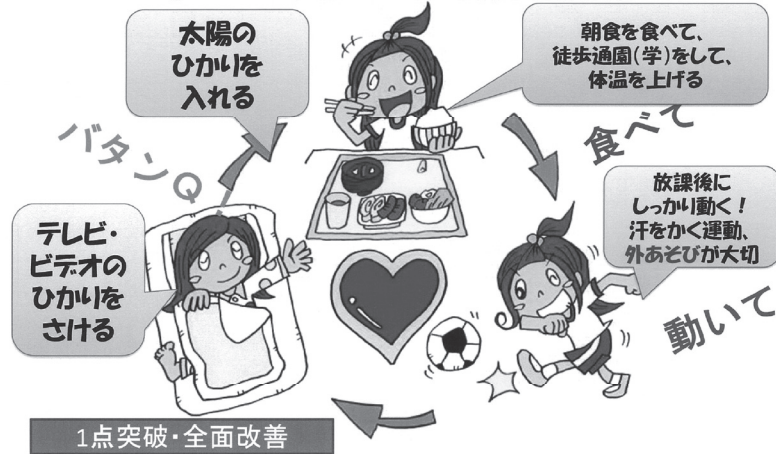


この楽しい造形活動の経
験を子どもたちと共有し、
今後の保育に活かしてい
きたいと感じました。



食べて、動いて、よく寝よう!

子どもの生活リズム向上大作戦



研修レポート
河内ブロック

保育士研修会

「乳幼児期からの健康づくり」

早稲田大学教授/医学博士 前橋明氏

7月29日に「運動・発達支

援」研修がホテルアウイー

1975年代以降、社会

ナ大阪で行われ、「乳幼児
期からの健康づくり」を
テーマにご講演いただきま

した。
の夜型化が進むと、こども
たちの生活リズムにくるい
が生じました。遅寝・遅起き
で、朝食をしつかり食べず、

朝の排便がないまま登園・
登校する子どもたちが目
立ってきたのです。これら
の要因は、「日中の運動不
足(外あそび時間の短さ)」「
長いテレビ・ビデオ視聴時
間」「遅い夕食開始時刻」で
した。

2020年以降の新型コ
ロナウイルスの感染拡大に
伴う外出自粛や運動規制に
よって、子どもたちはます
ます外に出る機会を奪われ
ました。その結果、子ども
たちの外あそびは激減し、
スマートフォンやインター
ネット等を使った静的な活
動や目を酷使する動画視聴
が増えました。幼少年期に
外でからだを動かす機会が
なくなった子どもたちは、
発達しないうちに衰えてし
まいます。便利で快適な現
代生活が、発育期の子ども
たちの発達を奪うのです。

だのおかしさに歯止めを掛
けなければなりません。そ
れには、まず、社会全体で
「食べる」こと、「動く」こ
と、「寝る」ことの子どもの
生活習慣と「子どもの運動
や外あそび」を大切にす
る共通認識をもつ必要があ
ります。

朝の光刺激と日中の運動
あそびは、生活リズムに有
効です。日中に運動をしな
かったら、子どもの体力や
生活リズムはどうなるので
しょうか。私たちの生活は、
一日のサイクルでつながっ
ています。生活習慣(生活時
間)の一つが悪くなると、他
の生活時間もどんどん崩れ
ていきます。逆に、生活習慣
の一つが改善できると、次
第に他のことも改善されて
いきます。

具体的には、日中、太陽の
出ている時間帯にしっかりと
からだを動かして遊ん
だり、運動したりすると、おな
かがすいて夕飯が早くほし
くなり、心地よく疲れて、自
然と早目の就寝へと向かい
ます。早く寝ると、翌朝、早
く起きられるようになり、
朝食の開始や登園時間も
早くなります。朝ごはんを
しっかりと食べると、からだ
がエネルギーを得て、体温

子どもを交互に見ること
が、毛様体筋の働き、動き
を活性化させ、目の血液
循環と新陳代謝、安全能
力の向上に有効である
こと。

子どもを交互に見ること
が、毛様体筋の働き、動き
を活性化させ、目の血液
循環と新陳代謝、安全能
力の向上に有効である
こと。

子どもを交互に見ること
が、毛様体筋の働き、動き
を活性化させ、目の血液
循環と新陳代謝、安全能
力の向上に有効である
こと。

今こそ、みんなが協力し
合って、子どもの心とから

・戸外での安全なあそびの
中で、必死に動こうとす
る架空の緊急事態(鬼ごつ
こやドッジボール等)が、
子どもの交感神経を高
め、大脳や自律神経の働
きを良くすること。

・前頭葉の発達には、成功
体験だけでなく、失敗体
験を伴うあそびも重要で
あること。

・子どもの日中にワクワク
する集団あそびを奨励
し、1日1回は、汗をかく
くらいのダイナミックな
外あそびが必要であるこ
と。



・戸外での適切な光環境
は、近視の進行を抑制し、
目の保護に役立つこと、
また、外あそびで遠くと

・戸外での適切な光環境
は、近視の進行を抑制し、
目の保護に役立つこと、
また、外あそびで遠くと

・戸外での適切な光環境
は、近視の進行を抑制し、
目の保護に役立つこと、
また、外あそびで遠くと





ブロック活動報告

中堅職員 意見交流会

南大阪ブロック

令和6年4月27日、スイスホテル南海大阪で中堅職員意見交流会が行われました。

コロナ禍では交流する機会も減り、他園や自園の先生との食事の機会も少なくなっていたので、このような素敵な楽しい時間を過ごすことができうれしく思いました。

はじめに大阪府保育士会の伊藤裕子会長より「今日はみんなニコニコ笑顔で楽しい時間を過ごしてください」とお話があり、美味しい食事は人を元気にさせると改めて実感させられるひとときでした。

こども園でも、子どもたちにおいしい食事をニコニコ笑顔で「おいしいね」と伝えながら食事をするのが食育につながると、今回の交流会を通して感じました。

体も心も元気にしていただけ、明日の保育に繋がられるよう笑顔いっぱいこれからも頑張りたいと思います。

ブロック活動報告

わんぱく フェスティバル

河内ブロック

令和6年6月7日に東大阪アリーナに於いて、第25回わんぱくフェスティバルが開催されました。これは、東大阪市の私立認可保育園・こども園59カ園が加盟する「東大阪市民立保育会」が主催となり、子育て支援

を目的に子育て家族を応援するイベントです。開会式では野田義和市長にお越しいただき、ごあいさつをいただきました。

フロアでは、東大阪在住の就学前の子どもたちとその保護者を対象に、大型のエア遊具や汽車、手作りおもちゃのコーナーや、乳児が安心して遊べる遊具やブロックのコーナーなどあり、おままごとコーナーでは子どもたちが遊び込めるようにキッチンセットなどが用意されていました。

生による吹奏楽の演奏が行われ、会場を盛りあげてくれました。

その他、行政スペースも設置されており、そこでは子育て情報や入園相談を受けておられました。また東大阪市障がい児者福祉施設連絡会も参加されており、物品販売が行われました。

近くにもものぼり、どのコーナーも終日にぎわいを見せていました。来場された保護者の方からは「行って良かった」「時間が足りないくらいたくさん遊べて楽しかった」という、うれしい感想を伺っております。

今後も、子育て家庭にとって楽しいイベントとなるよう取り組んでいきたいと思っております。

第25回 東大阪市民立保育会

わんぱく フェスティバル

主催：東大阪市民立保育会 共催：東大阪市民立保育会
協力：東大阪市長官公署、各福祉施設協議会

6月7日(金)
会場：東大阪アリーナ
開場：9:30～13:00
※入場 12:30まで
2024年
入場無料

QRコード

ホームページはこちら

ステージ
9:30～9:40 開会式
9:50～10:30 大勢遊具
11:50～12:40 大勢遊具
12:50～13:00 閉会式

コーナー
9:50～12:20
大勢遊具 親子で遊ぶコーナー
親子で遊ぶコーナー
親子で遊ぶコーナー

【あそびの提供＆後援】
株式会社チャイルド社 株式会社フレール
株式会社ワンワールド 株式会社ジャウエツ大阪店
BLDオリエンタル株式会社 びかりのくに株式会社

TEL.072-987-2340

【お問合せ先】



保護者に対する 相談援助②

寺見 陽子

大阪公立大学 大学院
現代システム科学研究科
客員研究員

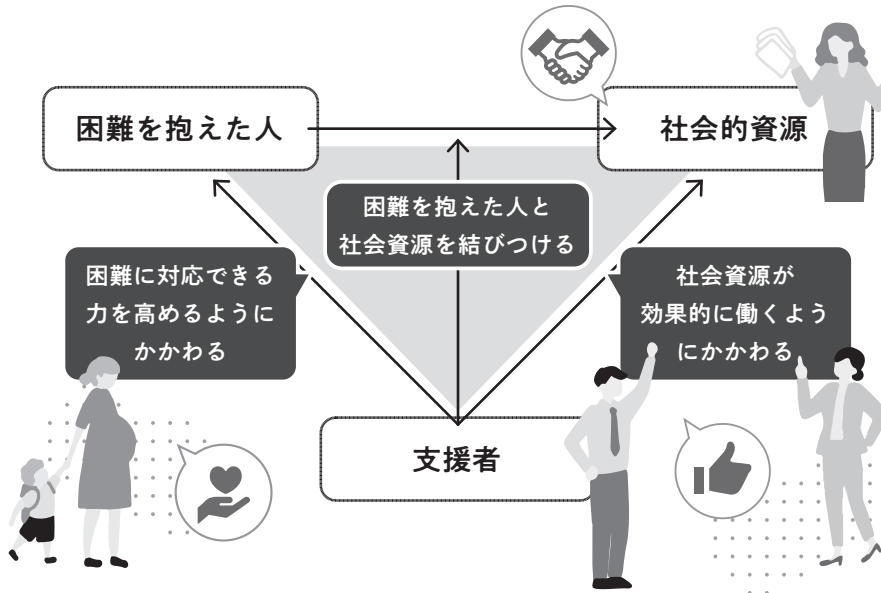


図1 相談援助の構造

1 保護者支援の基本
保護者支援の対象は、保育所に入所する子どもの保護者とともに地域の子育て家庭であることは周知のとおりです。保育所保育指針には、園の職員間で連携を図りながら、園の特性を活かして、積極的に取り組むこととされています。子どもの最善の利益を考慮し、保護者と子どもの成長の喜びを共有しながら、子どもと保護者の安定した関係づくりや保護者の養育力の向上を促すことが、その基本です。

2 保護者に対する 相談援助

相談援助とは、何らかの生活上の問題を抱える人に対して支援者がその人に対して助言・指導したり、社会的資源との関係を調整したり、社会的資源が効果的に機能できるようにしたりする一連の活動をさします(図1)。子どもと保護者の安定した関係を構築し保護者の養育力を高めていくためには、保護者との信頼関係を築き、保護者が子どもの何に困っているのか、ど

うしたいと思っているのか、保護者の状況や思い、本音を共感的に理解することが求められます。

3 保護者との信頼関係

筆者の調査では、多くの保護者は、利用している園の保育者をとっても信頼し、自分の子育ての相談によく乗ってもらう、何気ない日ごろのやり取りの中で、子どもや子育てで気になることがあれば気軽に先生に相談していると回答していました。園の先生をとっても信頼し、相談相手と思っていることがうかがえました。保護者支援は、保育者と保護者の信頼関係のもとに、保護者や子どもの意向やニーズに沿って、必要に応じて展開されるものです。ですから、保護者や子どもの困難感や何を必要としているのかを理解する必要があり、「してほしいことを支援する」ことが前提になります。保育所保育指針にも、支援の基本は、支援を必要としている人の理解から始まることと示されています。

日頃の保育の中で機会を捉え、日々の子どもの姿や保育の様子を伝えながら保護者の気持ちを受けとめ、必要に応じて相談のつたり助言をしたりする保育者の存在は、保護者に安心感を与えます。

4 保護者対応と対人援助

相談援助にあたっては保護者との対応を考える必要があります。

対人援助の技法として「バイステイックの7原則」が有名ですが、ここでは、個別性を尊重し、受容的共感的に傾聴すること、非審判的態度で接すること、本人の自己決定が重視されています。さらに大切なのは、保護者との対話です。保護者が保育者との対話の中で、自分自身の感情や思いに気づきを持つようになり、聞き方やかわり方を工夫し、「保護者が聴いてほしいことを聴く」ように関わりながら、「受け止めてもらえた実感」がもてるようにしていくことが望まれます。保護者が自由に自己表現したり思いを語ったりできるような関係性の構築とゆつたりと話ができる場が

5 「してほしい支援」をする

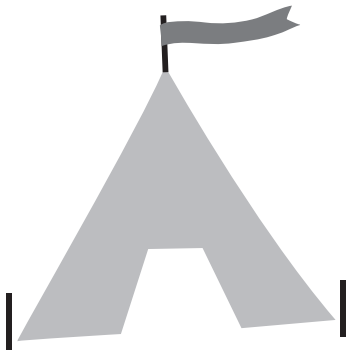
保護者支援の本義は、保護者が感じている困難感が低減され、子育てを前向きに取り組んでいくことができるようにエンカレッジすることです。「してほしい支援は何かをふまえて、そして、その過程を通して保護者の養育性の向上を図ることです。」

その過程では、地域の人材や資源を活用したり、地域の関係機関や団体等と連携・協力を図ったりしながら、何を支援するのかを検討しつつ保護者自身の自己決定を尊重して実践していくことが大切です。



保育の王手箱

担当 泉州ブロック



子どもたちが
やることを決める
デイキャンプで

「テント作り」

お泊まり保育からデイキャンプに変わり、今年の取り組みは子ども会議の結果「テントを作ってそのなかでご飯を食べよう!」ということになりました。今回は一人ひとりが入ることのできるテントを新聞紙で作ります。

① パーツ作り

材料を集めたら、新聞で柱を作ります。新聞をくるくる強く細く丸めていきます。上側(見開き新聞紙を2枚繋げて1本)5本/底面(見開き新聞紙1枚で1本)5本を作ります。

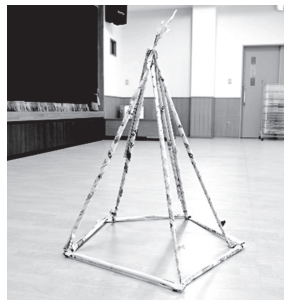


<材料>

新聞紙 / カラービニール /
透明テープ・セロテープ
/ 輪ゴム

② 組み立て

頂点を輪ゴムで括り、5角形に組んだ底にテープで固定していきます。組み立ては保育参観で保護者の方と一緒にします。上手くいった親子は別の親子の手伝いに行く姿も。



④ 完成した立派なテント

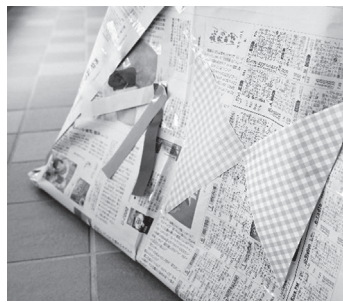
何日もかけて完成したテントはとってもお気に入り。最後はお家の方と一緒に壊れないようにそーっと持って帰りました。

お家でもテントの中に入ったり、飾り付けの説明をお家の方へ一生懸命したりする姿があったそう。



③ 飾り付け

柱の周りの新聞紙をテープで貼っていきます。1面は好きな色のカラービニールを使って絵や折り紙などで思い思いに飾り付けをしていきます。



保護者の方が園に来られる保育参観で保護者の方と一緒に製作したことで、子どもたちだけでなく、保護者の方が行事への関心を高めることにつながり、参観が終わっても最後まで完成させようと奮闘する親子の姿が見られました。デイキャンプ終了後はもっと大きなテント製作を楽しんでいます。

編集後記

今年の夏は、記録が塗り替えられるほどの猛暑日が続き、朝から熱中症指数計の警戒アラートが鳴って、なかなか戸外遊びができず涼しい室内での活動が中心となりました。唯一、朝の涼しい時間の水あそびを楽しみ子どもたちの声が響き渡っていました。

そんな中、パリオリンピックが盛大に行われ、日本人選手たちの活躍に目を見張るものがありました。子どもたちから、「フェンシングって体のどこでも当たったらいんやで」などという言葉を聞くと、普段ふれることのない競技にも興味をもって観ているんだなど、感心しました。

まだまだ、暑い日が続きますが、体調には十分に気を付けて残暑を乗りきっていきましょう。後期に向けても、保育士会では、さまざまな研修を企画していますので、多くの方のご参加をお待ちしています。

(N・Y)